

## 視察研修報告

1. 視察日：平成22年5月24日～25日
2. 視察地：山形県鶴岡市
3. 内 容：議会報の編集

### (1) 市政の概要

平成の大合併（平成17年10月1日）により人口では山形市に次ぐ県内第2位（138,499人平成22年3月31日現在）、面積では東北第1位（1,311.51k㎡）となった鶴岡市は、山形県の西北部にある庄内地域の南部に、新潟県に接して位置している。鶴岡市の東部から南部にかけては、そのほとんどが磐梯朝日国立公園に包含される出羽丘陵、朝日連峰、摩耶山系の山岳丘陵地帯が、広大な森林地帯を抱えて広がっており、市域の70%を占めている。また、これに接する北西部には、赤川水系の赤川、大山川、最上川水系の京田川、藤島川等の河川が貫流する庄内平野が広がり、「はえぬき」や新品種「つや姫」などのおいしいお米が生産される日本有数の米どころとして知られる。

庄内地域の政治、経済、文化の中心都市として栄えてきた鶴岡市は、江戸時代は譜代大名の酒井氏が治める庄内藩14万石の城下町で、その長い歴史と文化は、現代まで脈々と受け継がれ、城下町の面影を残す情緒あふれる都市である。

市街地の中心部には、鶴ヶ岡城址をはじめ、国指定史跡藩校致道館、致道博物館や人物資料館大宝館があり、周辺は鶴岡市の歴史や優れた文化性を象徴する地区となっている。また、平成22年4月29日に開館した「蟬しぐれ」で有名な、藤沢周平記念館がある。

現在の庄内地域では、平成3年に庄内空港が開港して以来、東北横断自動車道酒田線が供用開始され、さらに日本海沿岸東北自動車道の建設が進んでいるなど、飛躍的に高速交通体系が整いつつあり、大きな経済効果、人的交流効果をもたらしている。

また、平成13年5月には慶応義塾大学先端生命科学研究所、17年4月には東北公益文科大学大学院が開設されるなど、高等教育機関の充実が図られている。これらの高等教育機関と地域産業の連携により、新たな産業を発展させるとともに、地域資源を高度に生かした産業の展開を進めていくこととしている。

### (2) 調査事項（つるおか市議会だよりの編集）

発行回数は年4回（ただし、改選期は年5回）で、市内全世帯、市内外関係機関に配布している。編集体制は副議長及び各会派から1人ずつの計5名であり、事務局の担当は3名である。主な掲載内容は渋川市と大きな違いは無いが、バランスがよく、読みやすくなっている。

#### ア 参考になった点

- ・ 答弁者が市長、〇〇部長などと記載されているので誰が答弁したのか分かる。
- ・ 質問は太字にしているのでメリハリがあり見やすい。
- ・ 2色刷りだが罫線や色の濃淡などで変化をもたせ、見やすくしている。
- ・ 余白をうまく使い用語の説明などを行っている。

- ・質問と答弁は必ずセットとし、1セットにつき1つの見出しがつく。

#### イ 原稿執筆の方法

- ・渋川市の一般質問の原稿は、質問は議員、答弁は当局が担当。鶴岡市は会議録により記載してある内容の範囲を議員が執筆し、執筆した個所は、会議録にアンダーラインやマーカーなどで印をつけ、原稿用紙とともに提出。

#### ウ 声の議会だより

- ・平成16年度から実施されており、朗読ボランティアの協力をいただき、庄内視力障害者協会鶴岡支部で録音、声の広報と一緒に協会加入者へ届ける。

#### エ インターネット版議会中継、録画データの活用

- ・鶴岡市議会では本会議場にカメラを設置し、インターネット版の議会中継や録画を行っているため、見たい時に議会の質問や答弁を見聞きすることができる。

\*今回の視察研修を議会報の編集に生かし、市民に読みやすく、読まれる議会報になるように工夫していきます。

### 目で見える鶴岡市



致道博物館



藤沢周平記念館



庄内藩校致道館



大宝館